

A-2

コロナ禍におけるオンライン科学館開催の意義

—おうちで天体観測—

Importance of holding science museums online in the COVID-19 pandemic

- Astronomical observation at home -

○吉野碧斗¹, 安福紘大², 田中裕基³, 伊豆原月絵⁴*Aoto Yoshino¹, Kodai Yasufuku², Yuki Tanaka³, Tsukie Izuhara⁴

Abstract: As a result of a survey of museums during the COVID-19 pandemic, there were 54 museums that were closed nationwide. In this paper, since face-to-face stargazing was not possible due to the corona disaster, an online stargazing session was conducted on August 22, 2021, from the laboratory of the College of Science and Engineering, Nihon University, using an online conference system. As a result, the educational effect was recognized. This online event is important in terms of providing educational opportunities to those who cannot visit the museum due to the corona disaster.

1. はじめに

現在日本では、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）拡大の影響により、生活のスタイルが変化してきている。大学ではオンライン授業が始まり、博物館でもオンラインでのイベントや情報発信が増えている。しかし、オンラインでの博物館イベントの開催に関しては、対面でのそれと比べてもまだ多くの人に馴染みがあるものとなったかは疑問である。筆者らは、学科とは別に学芸員養成課程で学んでいる、もしくは修了しているが、ボランティア活動の一環としてワークショップを開催している。本論文では、2021年8月22日に日本大学理工学部伊豆原月絵研究室主催で開催したオンライン星空観望会「おうちで天体観測「みんなで星を描こう」」に焦点を当て、開催に向けた準備や当日の取り組みを紹介し、今後のオンライン博物館開催への課題を明らかにしたい。

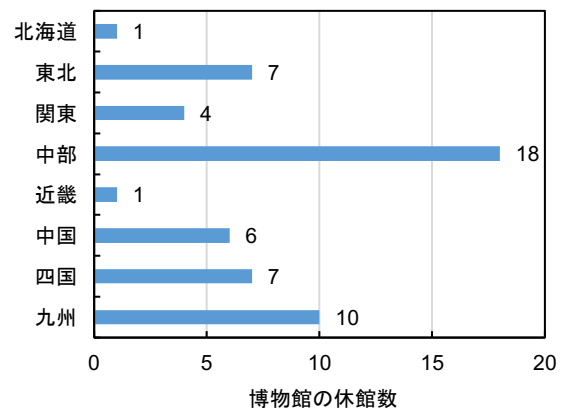
2. オンライン化への取り組み

2.1 博物館におけるオンライン化の現状

2021年9月8日の時点では、緊急事態宣言によって休館している博物館（一部の特別展を除く）は54館だった^[1]。地方別の休館状況をFigure 1に示す。

次に国内の博物館のコロナ禍における教育プログラムの実施について調査を行った。その結果、国立科学博物館や東京国立博物館などの国立の博物館をはじめ、都道府県立の博物館が動画配信やSNSを用いた情報発信をより積極的に活動していたことがわかった^{[2][3]}。展示内容別に見ると例えば、理工系の博物館では実験動画、動物園や水族館では生物の様子を撮影した動画を中心に配信するなど、それぞれに合った活動をしてい

た^[2]。また、三菱一号館美術館などではゲームソフトを用いた新しい取り組みも見られた^{[2][3]}。

Figure 1. Museum closures by region^[1]

2.2 オンライン博物館開催の試みとその意義

筆者らは日本大学理工学部の船橋キャンパスにおいて対面で実施してきた学芸員課程展示を、2020年度からオンラインで開催している。今年は、コロナ禍のため、船橋キャンパスには学生も外部の方も入構することができずオンラインでの開催を試みた。

3. オンライン星空観望会の実施

3.1 準備

2021年8月22日に日本大学理工学部船橋キャンパスの研究室と自宅からオンライン星空観望会「おうちで天体観測「みんなで星を描こう」」を開催した。対象は小学生とその保護者とした。

事前作業として、ビデオ解説資料、星空ワークシートを作成した。さらに、事後学習用として星空記録シ

1：日大理工・学部・航宇， 2：日大理工・院（前）・航宇， 3：多摩六都科学館， 4：日大理工・教員・一般

ートを作成した。また、書き方をわかりやすくするためにその見本も準備した。星空記録シートとその見本の一部を Figure 2 に示す。なお、ワークシートや解説資料は、当日までに作業を進めていく中で、小学生にとって分かりやすい文章を書くことや難しい用語の使用を控える説明の仕方となるように工夫した。

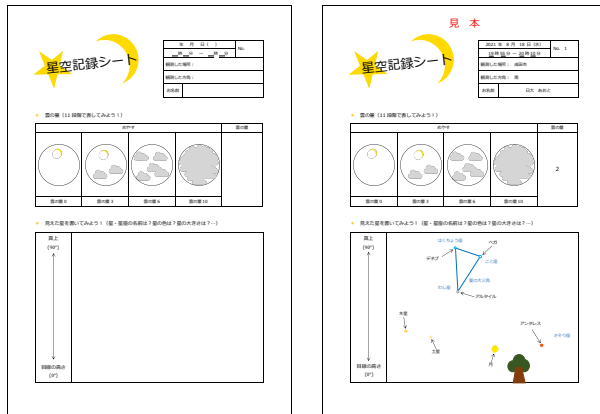


Figure 2. The worksheet

3. 2 オンライン星空観望会当日の流れ

当日はオンライン会議システム zoom を用いて、各自宅と大学の研究室を繋いで行った。時間は19時から20時の60分間とした。

4. 結果

4. 1 オンライン観望会を終えて

16件(小学生18名)の申し込みがあり、当日は小学生15名とその家族の方々にご参加いただいた。対面で行う観望会とは異なり、実際に望遠鏡を覗くことはできないが、オンラインという新しい形で楽しめる工夫や参加者とのコミュニケーションを意識した。今回のオンライン観望会では大学で望遠鏡を設置し、それをパソコンに接続することで望遠鏡から見える月を参加者のパソコン上に映し出した。そしてワークショップとして「オリジナルの星空をつくらう！」を行った。これは参加者に事前に配布したワークシートに自分のオリジナルの星座を描いて、それを当日パソコンの画面に映し出して記念撮影をするというものである。なお、説明の際には固くなりすぎず、小学生にとって分かりやすい話し方や言葉遣いを意識した。そのため、イベントでは多くの人がこちらの言葉に積極的に応えてくれた。

5. 考察

以上のことから博物館でのオンラインでの情報発信、コンテンツの変化、そして開館の状況などを理解するために調査の継続が重要であるとの主張がなされている^[2]が、筆者らも同様に考えている。今回開催した同時双方向のワークショップの利点は、対面では遠いため参加できないという方であっても気軽に自宅から参加可能であるということである。

また今回のイベントでは、同時双方向で行ったことで、お互いの表情や反応を確認できた。しかし、参加者が緊張したり飽きてしまわないように、常に表情や話し方を工夫する必要がある。今回のイベントで終始和やかな雰囲気で行うことができたのは小学生が緊張しないように、こちらが柔らかい口調で楽しそうに話すということ意識した。オンラインイベントでは実際に会って話しているわけではないが、まるで目の前で話している、一緒の場所にいるという感覚に開催者、参加者ともなることが重要であり、満足度の高いイベントになると考える。

6. まとめ

本研究では、国内の博物館のオンライン化についての現状調査と筆者らが企画し実施したオンライン星空観望会のイベントに関する準備、当日の流れについて述べた。コロナ禍においてオンラインでイベントを開催する理由の1つは、遠くの人や子供たちのように移動が難しい人にも、オンラインでのそれをきっかけに博物館に興味を持ってもらうことであると考えられる。今後のオンラインでのイベントや情報発信を行う際の工夫を考えていく必要がある。

参考文献

- [1] 美術手帖. まとめ:2021年8月~9月緊急事態宣言による美術館・博物館休館情報 2021年8月18日公表(オンライン) 入手先 <https://bijutsutecho.com/magazine/insight/24474> (Accessed 2021-09-08)
- [2] 室井宏仁;奥本素子:「COVID-19 感染拡大下における博物館施設のオンライン発信の傾向と分析」,『科学技術コミュニケーション』, No.28, p.1-10, 2020
- [3] 公益財団法人日本博物館協会. (オンライン) 入手先 <https://www.j-muse.or.jp/> (Accessed 2021-09-21)